

## 授業概要

小学校教員として必要な教科の基礎的な知識を、演習を通じて学びます。また、実際の授業における子どもの思考の様子も参考にしながら、小学校における学習のための教材について学びます。

春期は、国語、社会、算数を中心に、秋期は理科、音楽、図画工作、家庭、体育、生活、外国語、外国語活動を中心に基礎的な事柄、教科の体系的な枠組みについて学習します。

さらに、これらの授業の合間に、小学校における「総合的な学習の時間」を想定した本学周辺の教材研究を組み込み、その演習も行います。

授業は演習形式とし、発表、討論を中心に行います。

## 授業計画

第 1 回	授業ガイダンス	第 16 回	算数科教材の研究⑤（データの活用）
第 2 回	小学校学習指導要領の概要	第 17 回	理科教材の研究①（化学）
第 3 回	国語科教材の研究①（漢字と熟語）	第 18 回	理科教材の研究②（物理、力）
第 4 回	国語科教材の研究②（表現技法）	第 19 回	理科教材の研究③（物理、電流）
第 5 回	国語科教材の研究③（文章の読解）	第 20 回	理科教材の研究④（生物）
第 6 回	国語科教材の研究④（古文の読解）	第 21 回	理科教材の研究⑤（地学）
第 7 回	社会科教材の研究①（古代）	第 22 回	音楽科教材の研究①（低学年）
第 8 回	社会科教材の研究②（中世）	第 23 回	音楽科教材の研究②（高学年）
第 9 回	社会科教材の研究③（近世・現代）	第 24 回	図画工作科教材の研究①（表現）
第 10 回	社会科教材の研究④（日本の人口・産業）	第 25 回	図画工作科教材の研究②（美術史）
第 11 回	社会科教材の研究⑤（世界の産業）	第 26 回	家庭科教材の研究
第 12 回	算数科教材の研究①（数と計算）	第 27 回	体育科教材の研究
第 13 回	算数科教材の研究②（方程式）	第 28 回	生活科教材の研究
第 14 回	算数科教材の研究③（図形）	第 29 回	外国語教材の研究
第 15 回	算数科教材の研究④（測定）	第 30 回	授業研究のまとめ

## 到達目標

- ①小学校の各教科の枠組み（構造）について説明できる。
- ②小学校の各教科の基礎的な内容・ことがらについて説明できる。

## 履修上の注意

- ①発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。
- ②順番に発表を行うので、欠席しないこと。

## 予習・復習

- ①授業で発表・討論できない学習項目については、自分で学習し理解しておくこと。

## 評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

## テキスト

- ①小学校学習指導要領（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 3 月
- ②小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 7 月
- ③小学校全科の要点整理 '22、時事通信社、2020 年 9 月
- ④小学校全科の演習問題 '22、時事通信社、2020 年 9 月

## 授業概要

この基礎演習では、1年次の教養演習で培った基礎力を基に、3～4年次の専門演習に繋ぐ学びとなります。保育所・幼稚園・小学校への就職志望学生を対象としているため取り扱う学習教材としては、やや広めの領域となります。具体的には、前半（15回まで）が「教材研究」を中心に、絵本・紙芝居・手遊び等（保育者用）の教材に加え、小学校低学年用教材（例えば、国語科「くじらぐも」や生活科「大きく育て私の野菜」）等を取り扱う予定にしています。

後半（16回以降）は、「研究の基礎力育成」を中心にした学習となります。授業では具体的な学習を通して3・4年次の研究・卒論作成等がスムーズに展開されるように、先を見据えた知識・技能の基盤育成を、2年生なりに実施します。最後に、2年次終りの春休み中に実施される第1回目の「実習」に向けた基本的な姿勢、日誌の書き方等の簡単な「実習関連学習」も予定しています。

## 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	後半の学習にむけて
第2回	絵本とその特性	第17回	研究テーマづくり
第3回	絵本の読み聞かせ	第18回	研究の目的・方法
第4回	紙芝居とその特性	第19回	研究構想全体図
第5回	紙芝居で演じる	第20回	研究の実際
第6回	手遊びであそぼう	第21回	研究の中間発表会
第7回	低学年国語科教材「くじらぐも」通読	第22回	研究課題の修正
第8回	低学年国語科教材「くじらぐも」導入	第23回	研究課題の追求
第9回	低学年国語科教材「くじらぐも」展開	第24回	研究のまとめ
第10回	低学年国語科教材「くじらぐも」終末	第25回	研究発表会
第11回	生活科教材「大きく育て私の野菜」計画	第26回	実習にむけて
第12回	生活科教材「大きく育て私の野菜」導入	第27回	施設別実習
第13回	生活科教材「大きく育て私の野菜」展開	第28回	実習日誌の考え方
第14回	生活科教材「大きく育て私の野菜」終末	第29回	実習日誌の文章表現
第15回	前半のまとめ	第30回	まとめ

## 到達目標

- ① 子ども理解や遊びの援助、教材の特性、協働性等について、意欲的に考え授業に参加しようとしている。
- ② 保育・教育における援助、指導内容、指導方法等に関する基本的内容について、理解している。
- ③ 保育・教育の現場で求められる研究力の習得に向けて、主体的に考えたり表現したりしている。

## 履修上の注意

- ① 主体的・意欲的に学ぶ意欲や態度を重視する。
- ② 探求力、課題解決力、プレゼン能力を重視する。
- ③ 遅刻・欠席のない学習態度、グループの仲間との協力的な学習活動を重視する。

## 予習・復習

- ① 毎時間の授業終了時に予告される次回の学習概要を基に予習、質問内容を考える。
- ② 発表者は、文献を読んだうえで、質問やコメントに応じられるように準備してくる。
- ③ 基本的に発表者は、前時にレジュメを配布することを常とする。

## 評価方法

- 全授業への出席を前提とし、毎時間のゼミでの発表内容、態度、質問、レポート等で評価する。
- 授業時に具体的な評価の内容を説明する。

## テキスト

初回の授業時に指示する。

## 授業概要

前半は、理科教育、環境教育に係わるテーマ等の諸課題について、選択的にテーマを決定し、分析・検討することを通して、課題を見出し、それを探究し、そのプロセスや成果についてまとめて発表のプレゼンテーションを行う。また、これらの諸課題に関わる内容に関して、子どもへの指導という観点から指導案や教材を試行的に作成する。

理科離れが叫ばれる昨今、観察・実験、体験等を通じた学習の実践が求められている。しかし、学校現場では、児童はもとより指導する教師側の理科離れの現状が問題点となっている。そこで、本演習の後半では、理科に関する知識の定着や実験技能の取得を図るとともに、模擬授業等を通じて将来的な教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

## 授業計画

第1回	前半オリエンテーション	第16回	後半オリエンテーション
第2回	課題設定・課題探究過程について	第17回	授業参観の仕方と発表の順番等の決定
第3回	グループによる課題選定と設定	第18回	理科に関する知識の定着及び実験技能取得のための活動 *学外活動
第4回		~23回	
第5回	理科教育、環境教育に係わる現代的課題等の分析と探究のための計画立案（資料収集、調査活動、整理の仕方等）		
第7回	理科教育、環境教育に係わる現代的課題等の探究活動（文献資料、インターネット、フィールド調査、課題探究活動の報告・方向修正等） *学外活動	第24回	模擬授業の実践と検討会
第9回		~28回	
第10回	理科教育、環境教育に係わる現代的課題等の探究過程と成果の整理・発表の準備（アウトラインの設定と資料作成）		
第12回			
第13回	発表のプレゼンテーションと検討会		
第14回	学習のまとめ（レポート 成）	第29回	学習のまとめ（レポート作成）
第15回		~30回	

## 到達目標

- 理科教育・環境教育に関する課題に対して得られた情報を正しく整理してまとめ、発表することができる。
- 理科に関する知識をもとに、観察・実験を正しく行うことができる。
- 予備実験等を通じて綿密に授業計画を作成し、模擬授業を展開することができる。

## 履修上の注意

授業を土日に振り替えて、学外に出る必要が生じることもある。グループでの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。

遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。

実験や観察を行うに当たり、必要に応じて教材費を徴収することがある。

## 予習・復習

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成、模擬授業の準備など、授業以外の自主学習が必要となる。それぞれを計画的に進めることができる必要がある。

## 評価方法

授業中の態度や参加状況（30%）、プレゼンテーションへの取り組みと発表内容（30%）、個人レポートなどの提出物（20%）、模擬授業の様子など（30%）によって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションや模擬授業を欠席した場合、授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

## テキスト

適宜印刷資料を配付する。

## 授業概要

日本と世界の代表的な童話や昔話などについて指導するとともに、研究発表のやり方についても指導します。一人一人が自分の興味に従って童話や昔話を選び、作品について及び教育・保育上の意義・取り上げ方などについて、調査・考察を重ねて研究発表を行います。また、聞き手も、発表内容について意見・感想・疑問点等を述べ、意見交換や討論を行います。この発表や意見に対して、指導を行います。卒業論文を書くことにつながるように、発表内容をレポート化することや隣接分野の書籍を読むことも指導します。また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

## 授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	世界の昔話研究「大きなカブ」
第 2 回	日本の昔話概説	第 17 回	世界の昔話研究「ジャックと豆の木」
第 3 回	日本の昔話研究「桃太郎」	第 18 回	世界の昔話研究 ペロー
第 4 回	日本の昔話研究「浦島太郎」	第 19 回	世界の昔話研究 グリム
第 5 回	日本の昔話研究「花咲か爺さん」	第 20 回	世界の童話概説
第 6 回	日本の昔話研究「猿蟹合戦」	第 21 回	世界の童話研究 イソップ
第 7 回	日本の昔話研究「かちかち山」	第 22 回	世界の童話研究 アンデルセン
第 8 回	日本の童話概説	第 23 回	世界の童話研究 ルイス・キャロル
第 9 回	日本の童話研究 小川末明	第 24 回	世界の童話研究 C・S・ルイス
第 10 回	日本の童話研究 浜田廣介	第 25 回	世界の童話研究 J・K・ローリング
第 11 回	日本の童話研究 宮沢賢治	第 26 回	施設見学 1 (国際子ども図書館)
第 12 回	日本の童話研究 新美南吉	第 27 回	施設見学 2 (相田みつを美術館)
第 13 回	日本の童話研究 松谷みよ子	第 28 回	施設見学 3 (ちひろ美術館)
第 14 回	世界の昔話概説	第 29 回	施設見学 4 (東京子ども図書館)
第 15 回	世界の昔話研究 「三匹の子豚」	第 30 回	施設見学 5 (アンデルセン公園)

## 到達目標

日本と世界の代表的な童話・昔話について知り、童話・昔話等の物語を学ぶための基礎的な知識を養うことが目標です。また、研究調査及び研究発表の方法を身につけ研究発表ができるようになり、同時に他の発表者から学ぶ姿勢も身につけます。

## 履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、交互に研究発表を行い、その内容を評価します。聞き手は、発表についての意見・感想・疑問等を述べ、それも評価に加えます。また、施設見学レポート等、提出物も評価に含めます。多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

## 予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

## 評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）  
研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

## テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

**授業概要**

- ・幼稚園教諭、保育士の資格取得に向け、保育とは何か、そのために必要な要素とは何か、保育者の資質とは等について考察し、保育の方法等の基礎的な知識や技能を学ぶ。そして、就学前の乳幼児教育（保育）の在り方について考察する。世界の保育（乳幼児教育）方法についても、基本文献から学ぶ。
- ・後半は専門演習に向け、各自がテーマを決め、先行文献、参考文献・関連資料を読み解き、まとめて発表しあう。その際の小論文の作成方法や、プレゼンテーションの方法、質疑応答等、実践を通して研究し発表するということについて学ぶ。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス①	第 16 回	ガイダンス②
第 2 回	保育所保育指針の概要	第 17 回	研究テーマの設定方法
第 3 回	幼稚園教育要領の概要	第 18 回	グループで研究テーマを探る
第 4 回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要	第 19 回	文献の検索方法
第 5 回	保育という営み	第 20 回	レポート作成の方法
第 6 回	保育に必要な要素	第 21 回	各自の研究テーマの設定
第 7 回	保育者の資質	第 22 回	小論文作成の方法
第 8 回	保育の方法①（基本）	第 23 回	個人研究①
第 9 回	保育の方法②（保育園）	第 24 回	個人研究②
第 10 回	保育の方法③（幼稚園）	第 25 回	個人研究③
第 11 回	保育の方法④（認定こども園）	第 26 回	プレゼンテーションの方法・質疑応答について
第 12 回	世界の保育①（フィンランド・他）	第 27 回	発表準備
第 13 回	世界の保育②（アメリカ・他）	第 28 回	発表①
第 14 回	世界の保育③（フランス・他）	第 29 回	発表②
第 15 回	春期のまとめと意見交換	第 30 回	振り返りとまとめ

**到達目標**

- ・保育についての研究テーマの設定や検討・考察の方法について体験的に習得する。
- ・基本的な文章作成、ならびに調査・研究の方法について習得する。
- ・意見交換や質疑応答を通して、自分の意見を論理的に説明できるようにする。

**履修上の注意**

- ・積極的な、授業態度を求める。（遅刻・欠席は原則不可とする。）
- ・前半は、授業内容について話し合い、まとめをレポートにして提出する。
- ・後半は、主体的に研究を進める必要がある。

**予習・復習**

- ・課題への予習を行い、配布資料の整理とその日の復習をしておく。
- ・発表に向けて、自主学習を進んで行う。

**評価方法**

- ・出席状況（30%）、授業態度・課題や授業への積極性（20%）、研究発表や提出物（50%）、以上の内容から総合的に判断。

**テキスト**

- ・授業内で指示する。
- ・その他必要に応じて、資料を配布する。

## 授業概要

「子どもと家族」についてさまざまな観点から学び、議論します。と同時に、3年次以降の専門的な研究をすすめるうえで必要となる、知識や作法を身につけます。

前期は、家族社会学の基本文献をとりあげ、文献の読み解き方、参考文献や関連資料の探し方、レジュメの作成方法、プレゼンテーション、質疑応答におけるマナーなど、研究に必要なトレーニングを重ねていきます。後期は仲間と協力しながらグループ研究に取り組み、研究の「楽しさと難しさ」を経験します。

## 授業計画

第 1 回	オリエンテーション～ゼミの作法	第 16 回	後期のすすめ方
第 2 回	そもそも研究ってなに？	第 17 回	研究の動機・問題関心
第 3 回	そもそも論文ってなに？	第 18 回	「問い」と仮説
第 4 回	レジュメの作成と報告態度について	第 19 回	研究テーマの設定
第 5 回	テキストを読み解く 1	第 20 回	グループ研究 1
第 6 回	テキストを読み解く 2	第 21 回	グループ研究 2
第 7 回	テキストを読み解く 3	第 22 回	グループ研究 3
第 8 回	参考文献の探し方	第 23 回	グループ研究 4
第 9 回	関連資料の探し方	第 24 回	グループ研究 5
第 10 回	文献報告に挑戦 1	第 25 回	プレゼンテーションの方法 1
第 11 回	文献報告に挑戦 2	第 26 回	プレゼンテーションの方法 2
第 12 回	文献報告に挑戦 3	第 27 回	プレゼンテーションの方法 3
第 13 回	文献報告に挑戦 4	第 28 回	プレ報告会
第 14 回	文献報告に挑戦 5	第 29 回	研究報告会
第 15 回	後期に向けて	第 30 回	まとめ～3年生にむけての課題

## 到達目標

「子どもと家族」をとりまく現代社会の問題について理解を深める。

3年次以降の専門的な学習に必要な知識や態度を身につける。

自分の研究関心のありかを明らかにする。

文章を書く練習をし、レポート作成や実習日誌作成のための力をつける。

## 履修上の注意

楽しく意欲的に学ぼうという態度を求める。

課題や報告に積極的に取り組むことを求める。

仲間と活発に議論する態度を求める。

## 予習復習

報告者は、文献を読み、レジュメを作成するなど、報告準備をする。

それ以外の参加者は、文献を読んだうえで、質問やコメントを準備してくる。

グループ研究では、各自が毎回、作業を分担する。

## 評価方法

出席は当然重要である。そのうえで、ゼミでの報告態度と報告内容（40%）、議論への参加態度（30%）、課題レポート（30%）で、総合的に判断する。

## テキスト

初回のゼミで参加者の興味・関心を確認したうえで、相談して決める。

## 授業概要

「子どもにかかわる問題」に関する報告書を購読し、その問題への理解を深めるとともに、統計情報の解釈の仕方を理解し、報告書の読み方を身につける。また「児童虐待」「貧困」「ヤングケアラー」「ひとり親家庭」など、子どもや若い世代におきている問題について把握し、興味・関心を高めていくこととする。

春期では「医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」報告書と「ひとり親家庭等生活実態調査報告書」を購読し、在宅あるいは施設入所中の障害児の虐待の状況・構造やひとり親家庭の生活実態について理解を深める。

秋期では各自の興味がある問題を取りあげ、解決や専門職のかかわりについて考えていくとともに、文章の書き方や表現のレベルアップにも取り組む。

## 授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	子どもや若い世代に起きている問題	第 17 回	文献購読
第 3 回	「被虐待児童の実態調査」報告書購読	第 18 回	文献購読
第 4 回	「被虐待児童の実態調査」報告書購読	第 19 回	文献購読
第 5 回	「被虐待児童の実態調査」報告書購読	第 20 回	文献購読
第 6 回	「被虐待児童の実態調査」報告書購読	第 21 回	文献購読
第 7 回	「被虐待児童の実態調査」報告書購読	第 22 回	個人発表にむけて①
第 8 回	「被虐待児童の実態調査」まとめ	第 23 回	個人発表にむけて②
第 9 回	「ひとり親家庭等実態調査」報告書購読	第 24 回	個人発表
第 10 回	「ひとり親家庭等実態調査」報告書購読	第 25 回	個人発表
第 11 回	「ひとり親家庭等実態調査」報告書購読	第 26 回	個人発表
第 12 回	「ひとり親家庭等実態調査」報告書購読	第 27 回	個人発表
第 13 回	「ひとり親家庭等実態調査」報告書購読	第 28 回	個人発表
第 14 回	「ひとり親家庭等実態調査」まとめ	第 29 回	個人発表のまとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ、一年のふりかえり

## 到達目標

- 子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく
- 報告書を購読することで統計情報の読み方を理解し、報告書全体の理解を深めていく
- 発表する力、発言する力、文章をまとめる力をより向上させていく

## 履修上の注意

- 子どもや若い世代に起きている問題や解決について、興味・関心があることを前提とする。
- 報告書の内容について順番を決めて発表する。さらに、その内容についてグループディスカッションを行うので、積極的な参加を求める。
- 遅刻、欠席はしないこと。

## 予習・復習

報告書は発表にあたっていなくても、指定された範囲について事前によく読んでおくこと。  
その他、必要に応じて指示する。

## 評価方法

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、総合的に判断する。

## テキスト

春期：

- 「平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 医療機関における被虐待児童の実態に関する調査」事業報告書（PwC コンサルティング合同会社）（2020）
- 市町村や都道府県が実施した「ひとり親家庭等実態調査」報告書

秋期：購読する文献は、メンバーの興味・関心によって決定する。

**授業概要**

この演習では、小学校教員を志望する学生を対象に、教育法規に関する学習を進めることにする。日本は法治国家である以上、教育の世界においても法規は大変重要であり、それゆえに教員採用試験でも最頻出領域である。

この演習を履修する時点で、現行教育法規について十分に学習する機会を得ていない（「教育法規」を履修しないとまとまった機会が得られない）ため、主要な教育法規について広く浅く理解していくことを主たる目的とする。未習事項が多いため、担当者による講義が中心となるが、質疑応答をはさみつつ理解を深めていく。一定のまとまりごとに問題演習の機会を設け、知識の定着を図ることにする。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション（ゼミの進め方）	第 16 回	懲戒・体罰に関する規定
第 2 回	教育基本法（1）	第 17 回	いじめ・不登校に関する規定
第 3 回	教育基本法（2）	第 18 回	障害を持つ子どもに関する規定
第 4 回	教育基本法（3）	第 19 回	児童虐待・人権に関する規定
第 5 回	学校の種類と目的に関する規定（1）	第 20 回	懲戒・体罰に関する規定（1）
第 6 回	学校の種類と目的に関する規定（2）	第 21 回	懲戒・体罰に関する規定（2）
第 7 回	就学に関する規定	第 22 回	問題演習③-1
第 8 回	問題演習①-1	第 23 回	問題演習③-2
第 9 回	問題演習①-2	第 24 回	教職員に関する規定（1）
第 10 回	学校運営に関する規定（1）	第 25 回	教職員に関する規定（2）
第 11 回	学校保健・安全に関する規定	第 26 回	教職員に関する規定（3）
第 12 回	学校給食に関する規定	第 27 回	教育委員会に関する規定
第 13 回	教材・著作権に関する規定	第 28 回	問題演習④-1
第 14 回	問題演習②-1	第 29 回	問題演習④-2
第 15 回	問題演習②-2	第 30 回	まとめ

**到達目標**

- ・教育法規に関して基本的な知識を得る。
- ・現行教育法規が持っていてしまっているさまざまな問題点（だから法規は改正される）を理解する。

**履修上の注意**

- ・法規の文章は、正確さを求めるがために、恐ろしく回りくどい表現が用いられるので、粘り強く格闘すること。
- ・教育法規は小学校採用試験では頻出だが、他の試験ではほとんど見かけない。それゆえ、小学校教員を志望する人以外には、費用対効果が見込めない内容となるので、その点を理解した上で履修すること。

**予習・復習**

- ・適宜問題演習の機会は設けるが、授業後に自主的に教員採用試験問題を解いてみるとよい。知っているさえすればあっさり正解してしまうという、冷静に考えればごく当たり前の事実を体感してほしい。

**評価方法**

- ・法規の内容の理解度（50%）、輪講における成果（50%）

**テキスト**

- ・教科書名：教職教養の要点理解（2022 年度版）
- ・著者名：時事通信出版局（編）
- ・出版社名：時事通信社
- ・出版年：2020 年



## 授業概要

心理学を基盤として現代社会の様々な課題に積極的に取り組む姿勢を養う。そのために、心理学（発達心理学、教育心理学）の基礎的文献等を用いて、発達や教育に関する心理学的な観点から調査方法や考察について学ぶ。春期は心理学の研究法や論文講読の方法について学ぶことを中心とする。秋期は実際に自分たちで論文等を読み、その内容をまとめて報告を行ったり、実際に自分たちでデータを収集し簡単な分析を行ったりすることから、心理学の方法論や理論についてさらに深く理解する。これらの活動を通じて、心理学の研究内容および研究方法を理解し、自らの興味関心に即した課題設定・研究計画立案につなげることを目的とする。

## 授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	こころについての知識	第 17 回	論文講読実践① グループ 1
第 3 回	心理学の研究の特徴とその過程	第 18 回	論文講読実践② グループ 2
第 4 回	研究に向けての学習	第 19 回	論文講読実践③ グループ 3
第 5 回	観察法	第 20 回	論文講読実践④ グループ 4
第 6 回	面接法	第 21 回	論文講読実践⑤ グループ 5
第 7 回	質問紙法	第 22 回	心理学演習(観察法)① データ収集と分析
第 8 回	実験法	第 23 回	心理学演習(観察法)② 結果のまとめ
第 9 回	論文検索の方法、論文講読の方法	第 24 回	心理学演習(面接法)① データ収集と分析
第 10 回	論文講読演習① 概要の把握、論文の構造の理解	第 25 回	心理学演習(面接法)② 結果のまとめ
第 11 回	論文講読演習② 問題設定の理解、仮説とは何かの理解	第 26 回	心理学演習(質問紙法)① データ収集と分析
第 12 回	論文講読演習③ 分析方法と結果の理解	第 27 回	心理学演習(質問紙法)② 結果のまとめ
第 13 回	論文講読演習④ 結果と考察の違いと対応の理解	第 28 回	心理学演習(実験法)① データ収集と分析
第 14 回	論文講読演習⑤ 研究の限界と課題の理解	第 29 回	心理学演習(実験法)② 結果のまとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	全体の総括

## 到達目標

- 論文講読等を通して、発達や教育に関わる諸問題を理解することができる。
- 発達心理学および教育心理学の研究方法を理解し、それらの研究に関する概要資料（レジュメ）を作成することができる。
- 発達や教育に関わる問題について、自らの興味・関心に合わせた研究課題を定めることができる。

## 履修上の注意

課題への積極的な取り組み、議論やグループワークへの積極的な参加を求める。

## 予習・復習

授業で紹介した論文に関連する文献を自分で調べて読む。  
発表者は授業内での学習だけでなく、自主学習が必要である。

## 評価方法

授業への参加態度およびグループワークでの取り組み（50%）、論文講読レポート（50%）

## テキスト

授業内で指示する。

## 授業概要

小学校教員として必要な各教科、領域の基礎的な知識を、演習を通じて学びます。実際の授業における子どもの思考の様子も参考にしながら、小学校における授業づくりについて学びます。

春期は国語、社会、算数を中心に、秋期は理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動を中心に、基礎的な事柄、各教科、領域の体系的な枠組みについて学習します。

授業は演習形式とし、発表、討論を中心に行います。

## 授業計画

第 1 回	授業ガイダンス	第 16 回	理科の授業づくり（生命）
第 2 回	国語の授業づくり（話すこと・聞くこと）	第 17 回	理科の授業づくり（地球）
第 3 回	国語の授業づくり（書くこと）	第 18 回	生活の授業づくり（活動や体験）
第 4 回	国語の授業づくり（読むこと）	第 19 回	音楽の授業づくり（表現）
第 5 回	国語の授業づくり（伝統的な言語文化）	第 20 回	音楽の授業づくり（鑑賞）
第 6 回	社会の授業づくり（地域の産業）	第 21 回	図画工作の授業づくり（表現）
第 7 回	社会の授業づくり（地域の地理的環境）	第 22 回	図画工作の授業づくり（鑑賞）
第 8 回	社会の授業づくり（国土や産業）	第 23 回	家庭の授業づくり（衣食住）
第 9 回	社会の授業づくり（歴史や政治）	第 24 回	体育の授業づくり（運動）
第 10 回	算数の授業づくり（数と計算）	第 25 回	体育の授業づくり（保健）
第 11 回	算数の授業づくり（量と測定）	第 26 回	道徳の授業づくり（道徳的实践力）
第 12 回	算数の授業づくり（図形）	第 27 回	外国語活動の授業づくり（コミュニケーション）
第 13 回	算数の授業づくり（数量関係）	第 28 回	総合の授業づくり（探究活動）
第 14 回	理科の授業づくり（物質）	第 29 回	特別活動の授業づくり（学級活動）
第 15 回	理科の授業づくり（エネルギー）	第 30 回	授業研究のまとめ

## 到達目標

- ・小学校の各教科、領域の枠組み（構造）について説明できる。
- ・小学校の各教科、領域の基礎的な内容、事柄について説明できる。

## 履修上の注意

- ・発表、討論を中心に行うので遅刻しないこと。
- ・順番に発表を行うので、欠席しないこと。

## 予習・復習

- ・授業で発表、討論できない学習項目については、自分で学習し理解しておくこと。

## 評価方法

- ・発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

## テキスト

- ・小学校学習指導要領（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 3 月
- ・小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 7 月
- ・小学校全科の要点理解 '22、時事通信社、2020 年 9 月
- ・小学校全科の演習問題 '22、時事通信社、2020 年 9 月